

平成 30 年度東京都立園芸高等学校経営報告〈全日制〉

校 長 徳田 安伸

都立園芸高等学校は、常に我が国の農業教育の中心を担ってきた。創立 100 年を経過し、名実ともに日本を代表する「農業の専門高校」を目指すために、目指す学校像と 6 本の柱を掲げた。これに加え、21 世紀の 100 年を視野に入れ学校創設の根本精神に立ち返るとともに、教育活動全般にわたって生徒に体得させるべく“校是”を前面に打ち出し、今年度は 110 周年を迎え、さらに全校のベクトルを集中させて一層の高みを目指した。

《目指す学校像》「緑と食と命の学園」

- 1 風の通る学校：「見える化」を通して校内に情報の風を通す。
- 2 分かる学校：「ユニバーサルデザイン」を研究して分かる授業を行う。
- 3 きれいな学校：「リニューアル」を通して校舎内外を「きれい化」する。

《6本の柱》

- (1) 基盤教育
- (2) 専門教育
- (3) 教育財産
- (4) 母校愛
- (5) 地域貢献
- (6) 文化創造

1 今年度の取組みと成果

(1) 教務、学習指導

校是「勤勉勤労」を再確認し、教育課程改善に着手した。この方針に従い、

- ① 登校時間を 15 分早め、全校での朝学習を開始し 5 年が終了した。その結果、学校全体の遅刻者が減少し、生活態度にも落ち着きが出て、学力も伸びてきた。しかし、昨年度から進学者はやや減少した。
- ② 2～3 年次合計 8 単位の自由選択科目を廃し全て必修とした教育課程改善（勤勉勤労プラン）は完成し定着した。
- ③ 1 年次には習熟度別授業など細かく対応した分かる授業を展開し、学期ごとに補習や補充授業を実施した。
- ④ 専門教科では課題研究を通してプロジェクト学習を行い、成果を冊子にまとめた。
- ⑤ さらに 2 月の 3 科合同発表会には、友好校である愛知県立安城農林高校からも生徒代表を派遣して頂き、農業クラブ全国大会で優勝した発表を披露し、全校の啓発とした。

◇退学生徒数 2 名（0.48%；昨年度比 増減 0）

◇皆勤生徒数 50 名（12.0%；昨年度 21.2 %より 26 名減）

(2) 生活・進路指導

- ① 生活指導において、生活指導部と担任が粘り強い指導を実施し、茶髪 0 を堅持している。
- ② 問題行動指導回数 2 件（過去の推移：年間 14 件→8 件→8 件→2 件→3 件→2 件→2 件）と落ち着いた状況で推移している。

- ③ スクールカウンセラーによる全員面接、個別相談も定着し、落ち着いた学習環境を保つことができている。
- ④ 「挨拶ファースト」運動を2年前より開始し「生徒は1日100回挨拶しよう」とキャンペーンの成果もあって生徒の挨拶が際立って良くなり、来校者から高い評価を受けている。さらに、最近ではアイコンタクトや笑顔など挨拶の仕方も上手になってきたとの評価も受けている。
- ⑥ 進路指導では、食品科中心にインターンシップを夏季休業中に実施した。動物科では都内の動物園・水族館実習を実施した。
- ⑦ 面接や論文指導の徹底化により、就職希望者の決定率は100%達成を堅持している。
- ⑧ 専門を活かしての造園業界への就職者が増加した。
- ⑨ 昨年度と比較し就職希望者は横ばい、4年生大学進学希望者の数は減少したが、国立大学（帯広畜産大学）に3年ぶりに合格者を出した。資格取得を推進する農業校長会の施策（アグリマイスター）の成果が出た。

{	帯広畜産大学	0名→1名	東京農業大学	12名→9名、
	日本大学	5名→3名	日本獣医生命科学大	3名→1名
	麻布大学	2名→1名	他大学	12名→10名
	大学合計	34名→24名		

(3)－1 学校運営（周年行事）

- ① 創立110周年を記念して、全ての行事に「創立110周年記念」の冠をつけて実施した。
- ② 記念式典を11月17日（土）に指導部長のご臨席の下、盛大に開催することができ生徒の学校への母校愛もかなり醸成された。
さらに、記念誌も式典の様子を加えて3月1日に発行した。
- ③ 6月に同窓会 宗村秀夫会長がベトナム共和国訪問に際して、ドンタップ州教育委員会と友好校の締結を行った。
- ④ 6月23日に、三宅高校と、三宅島緑化プロジェクトの継続と周年行事年（70周年、110周年）のご縁から友好校の締結を行った。
- ⑤ 11月7日には、4月に学校訪問（第1回）した米国バージニア州アーリントンカウンティの高校、キャリア・センターと友好校の締結を行った。これを記念し平成31年3月30日に第2回米国研修団（生徒2名、引率1名）を派遣した。

(3)－2 学校運営（通常業務）

- ① 主幹教諭、主任教諭を軸とした体制は確立し、落ち着いた学校運営が進められている。
- ② 企画調整会議を毎週開催し、全職員による毎朝8:30打合せも含め情報伝達は円滑。
- ③ 生徒の学校満足度調査では、93%と昨年に比べ若干低下しているが、高い水準で推移している。生徒のほとんどが満足していると言える。
(26年度84%→ ㉗:87%→ ㉘:92% →㉙:94.5% →㉚:93%)。
- ④ 経営企画室窓口への都民苦情は、生徒関連では1件が0件になった。他はイチョウ落葉の件、樹木による電波障害等の剪定依頼が近隣住民から寄せられた。速やかな対処により理解を得た。

(4) 特別活動

- ① 2月20日、友好校関係にある愛知県立安城農林高等学校生徒が来校し、全校課題研究発表会にて、農業クラブ全国大会で最優秀文部科学大臣賞を取得した意見発表を披露した。この友好校は、本校初代校長熊谷先生が110年前に当時の安城農林学校から赴任されたご縁により締結されたものであり、100年以上の関係性がある。

(5) 地域貢献活動・学習成果発表

- ① 昨年に引き続き、地域等の外部人材を活用した教育の推進として「地域連携推進モデル校」（国庫補助事業）の指定を受け、地域学校「協働本部」を中心に活動を行い、7月と1月に全体としての協議会を行った。
- ② 各団体とは個別の連携に過ぎないものであったが「協働本部」を立ち上げることによって組織化・総合化され、全教職員に本校と外部団体等の連携の全体像が「見える化」できた。さらに、本校が中心となって地域（世田谷深沢、等々力）の教育資源や外部人材を活用して生徒の社会的自立に必要な教育を充実させることができた。
- ③ この活動は、12月に文部科学省主催のシンポジウムにおいて校長が全国発表し、文部科学省の公式ツイッターにて公開されている。
- ④ 園芸科：5月バラ園公開を行い1,000人以上の来校があり、バラプロジェクトの生徒が説明を行うなど好評を博した。さらに、バラ園シンポジウムを開催し100名以上の参加を得て、本校園芸文化度の高さをアピールできた。
- ⑤ 園芸科：都庁前花壇と都庁前通路への植栽など計画的に実施した。
- ⑥ 園芸科：野菜担当では、日本橋高島屋とコラボした加工野菜の販売に取り組み、本校の野菜がお中元・お歳暮として全国販売した。さらに（株）イトウォークと連携し駒沢公園西口の店舗前で月2回土曜日に本校の野菜をマルシェとして販売した。
- ⑦ さらに、今年度は農業生産工程管理（GAP）の審査や導入に当たって、野菜栽培手法の履歴化、安全・安心化を図った。
- ⑧ 食品科：11月に東京大丸デパートで行われる全国農業高校収穫祭に新商品を販売し瞬時に完売した。
- ⑨ 動物科：日本獣医師会と提携したふれあい動物教室、地元小中学校での移動動物園を多数開催した。
- ⑩ 三宅島緑化プロジェクトは活動開始から14年目が終わり、苗の生産から大学生参加者指導まで本校中心に活動が進み、6月と11月に2回実施した。

2 今後の課題

(1) 教務、学習指導

- ① 「コツコツ勉強する」教育課程が完成した。「朝学習」も導入5年目を経て95%以上の生徒が早く登校して学習に励んでいるが、残り5%が開始時間ギリギリの登校か、遅刻傾向で徐々に参加率が落ちている生徒がいる。
- ② この対策として3年前から、全校生徒に手帳（スコラ手帳）を持たせスケジューリング（時間管理力）を育成している。

- ③ 朝のホームルーム遅刻者は 0.61%で1%以下を保持している。生徒の自己管理能力の一層の育成が課題である。
- ⑤ 次年度も「力をつける授業」を展開する。そのため、教員を（1）アクティブラーニング班、（2）ユニバーサルデザイン班の2班に分け授業研究を行っていく。時期学習指導要領改定に向けこの授業研究の意義が十分でない教員に理解させ、実践し、真に力をつけさせるのが課題である。
- ⑥ 放課後の自主学習ニーズに応えるための校内条件整備が課題である。昨年度より110周年記念事業の派米研修の一環としてJETを指導者とした「園芸高校イングリッシュ・カフェ（EEC）」を開設し生徒の語学研修を行っている。
- ⑦ 「日本農業技術検定3級」138名100%（昨年98%）と全員合格を達成できた。しかし、「同検定2級」5名（昨年6名）と一歩後退した。3級全員合格、2級2ケタ合格が今後の目標である。
- ⑧ 「FFJ検定」、「アグリマイスター顕彰制度」の普及奨励など、専門教科の指導に求められるニーズは多い。今年度は、「アグリマイスター」の最高位である「プラチナ」に1名認定された。これは東京都初のことであった。さらに、その生徒は国立大学（帯広畜産大学）に合格できた。

以上